三河アララギ

２０２３年 令和５年３月 弥生（やよい）

三　月　号

第 七十 巻　第 三 号

ニューヨーク日記（197）

http://blueshoe.copetin.com/

BlueCat, Shoe Lady

YAKITORI OVER SUMO?

Blue Shoe Diaries

相撲より焼き鳥?と言うわけではないけど両方かな。相撲観るのに焼き鳥は美味しいし欠かせないよね！生で観る両国国技館での大相撲はテレビで観るより迫力が全然違う。わけ分からなくってもとにかく面白い！マス席の床に置いた座布団の上に座って前もって頼んでおいたお土産をお楽しみ袋の様に楽しむのもいいよね。また来たい。

Sumo, watching it live at the Ryogoku Kokugikan is a special experience. It's much more dynamic and exciting than watching it on TV no matter how large a screen TV you have. And this experience is not complete without eating the well-known yakitori while sitting on a cushion on the floor box seats! You can (and should) pre-order the omiyage gift set when you get your sumo tickets. The set (for one) normally contains a makunouchi bento, yakitori, anmitsu, cookies, sumo shaped chocolates, rice crackers and other snacks, and a mug, bowl, or plate with sumo art. Basically a grownup lucky bag!

目次

第七十巻第三号（通巻八三一号）

表紙・一刀彫　（1）
ニューヨーク日記(197)　Blue Shoe（2）
歌集　わが冬葵　御津　磯夫（4）
歌集「草々後集」　今泉　米子（5）
昭和61年一月号作品　大須賀寿恵（6）
昭和61年一月月号作品　夏目　勝弘（7）
昭和61年一月月・二月号作品　岡本八千代（8）
如月近し　弓谷　久子（10）
植物図鑑　今泉　由利（12）
令和五年を　安藤　和代（14）
心踊りぬ　清澤　範子（16）
薄氷　山口千惠子（18）
店仕舞ひ　杉浦恵美子（20）
寒き日に　伊藤　忠男（22）
庭中改修　白井　信昭（24）
黒富士　矢崎　直人（26）
『ことよせ』　いーはとぶ
山崎　俊子（28）
伊藤　晴江（28）
水野　絹子（29）
牧原　規恵（29）
稲吉　友江（29）
鈴木美耶子（30）
吉見　幸子（30）
牧原　正枝（30）
森　厚子（31）
現代学生百人一首　東洋大学
友座　猛（32）
渡邉　響綺（32）
金地　皐希（32）
楠瀬　蓮（32）
秋根　周典（33）
境　拓真（33）
椎葉　藍香（33）
山本ほのか（33）
植村　公女（34）
『俳句』
木村　歩歩（34）
今泉　如雲（35）
今泉　由利（35）
矢崎　直人（35）
川口カルチャー受講者自作自詠俳句集（36）
五感を澄ませば（9）　杉浦恵美子（38）
附録（九）　矢崎　直人（40）
『セールスマンはセールスに弱い』
中屋　保之（42）
楽しい時間（124）　山本紀久雄（44）
『酔いの徒然』（131）　丸山酔宵子（46）
「習志野賛歌」　高橋　育郎（48）
絹の話（148）　今泉　雅勝（50）
「江上浩二の独り言」　江上　浩二（52）
初狩便り16　花野みぷり（54）
本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬
本田　勇気（56）
康鍼治療院　玄　翁（58）
台桜三月二日　横山　精真（60）
編集室だより　今泉　由利（62）
「三河アララギ」について（64）

歌集　わが冬葵

御津磯夫

庭を掃くこともなけれどおのづから冬枯るる羊齒冬青き羊齒

木の下の恆に小暗きかげ踏みてつひに音せぬ小鳥歩めり

枯れはてし草といへども根をふかくわが引く手力に抵抗をする

大き甕ふたつに水を充たしめて土には淡ききさらぎの苔

鐘樓の蔭なる白き枝垂梅時の移りの名殘のごとし

植ゑぬ木の幾種いく本芽ぶきつつ深山（みやま）をなせりわが裏庭は

鳶二羽のむつみあふこゑ爭うこゑ春の彼岸の朝ぞら仰ぐ

松の間の古りて變らぬ一つ部屋に慕ひ來し人と晝のもの食ふ

軒下に二人靜（ふたりしづか）の花すぎてはやくも萎えゆく雨ののちにも

吉祥草（きちじやうさう）といふ名よろこび慾ばりて株分け植うるいくところにも

歌集「草々後集」

今泉米子

秋の日は忽にしてサンルームも夕べとなりぬ寝椅子の我に

ことさらに赤き一枝とわが部屋に挿してくれたる楓（かへるで）もみぢ

わがために用意の安楽椅子のありハイビスカスの花の縁側

庭へ降りることも能はず今朝はわれに初咲きといひて寒椿の花

黒薔薇の開きそめたる縁側に午後の日ざしのたちまちかげる

青空のひろがるなどといふ言葉わが青空は芭蕉葉の上

日当りの縁にシクラメンの花の鉢日々に対ひてわが命あり

医学会の帰りと孫のくれたるはイタリアシエナの花のハンカチ

冬の日の天つたふ光のさす縁にあふれつつ咲くベゴニアの花

破れ破れてなびく芭蕉のあたりより聞えくるかな笹鳴く鶯

昭和61年1月号作品

大須賀寿恵

畑の上歩む背黒鶺鴒のしろき胸霜の朝の日に映えて見ゆ

青刈り田の穭にいでし穂の稔り垂れはじめたり土をするまで

柏の葉の風を聞きつつベランダに幼らの白き靴下を干す

緑の葉さゐさゐさやぎ黄葉（もみ）づるを忘れし如し庭の柏木

思ふことなきが如くに坐りをり削り尖れる鉛筆を置きて

常の如く一人のわれの横たはり一羽となりたるインコ騒げり

五分ばかり我は俯せになりてをり味噌汁頻りに匂ひつつ来る

水飲みに来て溺れしか折々に痙攣くりかへす足長赤蜂

白き雲つひに重なることもなく欅の梢の上すぎてゆく

洗場の四隅の水に落ちたまる柿の葉のいろいろいろにして

昭和61年1月号作品

夏目勝弘

かつて我もしてもらひしと同じごとく男と女とを見合ひさせをり

見合ひさせて帰りきたりぬ暫くをい寝横たはりてただただゐたり

煩はしいと思ひし見合ひを今日我は上座に坐りて仲立をする

目覚時計また睡眠薬等々は我れの一生に不要なるもの

手を伸ばせば逃げゆく目覚時計ありといふ我に出来ざる発明なり

眼閉づれば忽ち眠れる単純の出来ざる人を憐みにけり

明日があるといへる言葉の虚しさを重たき布団に丸まりて思ふ

短歌など作るはネグラと貶すあり秋の日の空の碧さを知るや

細き枝に止まれる鳥は只管に安定の動作繰り返しをり

日に日に川の中州の広くなる冬の日差しを吸ひ込みながら

昭和61年1月号作品

蒲郡　岡本八千代

父母の法要の日の過ぎゆきてわが稚萩の黄葉落葉す

幼子の晴着の肩揚げをする縁に陀兜囉の花の影のゆれをり

貰ひ来て七年になる椿の木は二つの小さき蕾を持ちぬ

半日を懸けゐて温もるわが頸の翡翠の玉を夕べに外す

一つの事心にかかるままにして何するとなく夕暮れにけり

白妙の八重山茶花の咲きつぎて朝夕べの白きわが庭

二つの式に穿(は)きたる二足の白き足袋吾足の形に脱ぎ捨ててあり

烏賊(いか)入りのお好み焼きのただ一つを半分づつにて昼餉終へしか

前掛(エプロン)を掛けたるままに買ひ物に出(いで)てしまひぬたちまちの夕べ

冬の雲速く流るる空見えて国語教育部の御津先生の講演始まる

昭和61年2月号作品

引越したる娘らの家に泊りたり西浦と同じに郊外電車の音

わが泊る四階の部屋の北の窓ひろごり見ゆ欅(けやき)の梢

引越して部屋に燈(とも)したる電燈の光をしばし仰ぎ見てをり

棟幾つ隔つるのみの引越しに我は小さきリヤカーを引く

越して来し家に一夜の朝明けに富士遠白く見えてをりけり

如月近し

豊川　弓谷久子

奥山より光射し来る座したまま今年も迎ふる初日の光

頑張って今年も生きむ老いの身を支えてくれる子と孫のあり

新しき日記帳となる又一年書き続けたし我が足跡を

何ゆえかなつかしき味子の炊きし七種粥を今日は味はう

「七種菜づな唐土の鳥が」幼なき頃のわらべ歌が浮かぶ

空爆をテレビは写す戦争は駄目だと声あげ叫びたし

雪残る庭見廻りぬ十年に一度の寒波とニュースは続く

断水も停電も無く感謝せむ今尚雪の降る北国よ

日向にて心静なる日々なれば幸せとせむ如月近し

体験者ならでは知らぬか空襲の恐怖も悲惨なあの戦も

庭の梅一輪咲いたとメール届く春遠からじと呟きてみる

自分の事を誦うのですよと訓されし御津先生がなつかしい

植物図鑑

東京　今泉由利

亜熱帯照葉樹の森にゐる火の玉だった地球の今を
生涯の最後の絵を描くために「生きている」と田中一村
深緑の緑の中に時々は赤きホルトの古葉を見つつ
パパイア・デ・アマソーナと呼びをりき南米原産パパイアは奄美に栄える
ムーチーの日餅を包むはショウガ科ミョウガ属ゲットウ月桃の葉
二メートル程あり大葉を幹先に黄金の剛毛恐竜とヒカゲヘゴ
木性のシダでありヒカゲヘゴ亜熱帯奄美大島大昔のつづく

雄株と雌株とソテツ科にて実ではなくして毒もてる種（たね）

樹皮と根にタンニンを含むシャリンバイ芭蕉布大島紬の染料であり

十両は薮柑子百両は唐橘千両は千両万両もまた万両

はるかはるか太古に始まる命の歴史今日の私の命を加へ

日本列島を伝ひ来たりとアサギマダラ奄美大島にて出逢ひしことを

熱湯にほぐれゆくゆくハイビスカス茶濃き濃き紅に我身を染むる

雪積る日もありといふ常夏の奄美大島宝の島よ

走りゆく車の窓より驚けり茂る緑に紅葉混じえてホルトノキ

令和五年を

豊川　安藤和代

寒空に高々と啼くひよ鳥も祝いているや令和五年を

孫子等が健やかであれと氏神に皺の手合わす八十の春

高価なる品より娘の手作りのおせちが一番吾が口に合う

賜わりしフワフワ毛布にくるまればかの日母の胸の心地す

この年も続けゆきたし短歌の道細く長くと笑顔も添えて

孫はみな社会人ですお年玉いらなきこの年寂しさは何故？

箱根駅伝親子孫とて応援校各々ありて声の賑わし

お雑煮も三日続けば「白飯と味噌汁がいい」と子も孫も言う

「就職は京都に決り」と孫娘嬉しく寂しく揺るる水仙

十才で母を亡くせし孫ならば大丈夫とぞ頑張ると言う

しんしんと冷え増し来たる睦月五日真昼も暗し氷雨降る窓

寒き日の熱あつラーメン美味しいね孫と一緒はなおさら旨し

ひとつ違いの兄貴の様な従兄です今日も電話で六十五分

暖き日は散歩の足をのばしたり春待つ細流光り細やか

この町に生れ育ちて八十年人の心の温きがうれし

心躍りぬ

春日井　清　澤　範　子

夕方の訪問者ありアトリエトレビよりの小包にて何が入ってゐるだろう

誰からかの贈り物届く雨の中確かめて荷札をそっと開けぬ

何と絹のブランケット心遣いほんとうにうれしく心踊りぬ

娘(啓子)がすぐお礼電話を入れわかってくださる「大変でしたね」と

初雪の景色窓からながめつつ静かな語らい熱き茶をのむ

「この月のアララギ歌稿を早く送ってね」と言う娘由利先生のお気持ち大切にして

早速娘(啓子)が贈り主に電話を入れる暖かく心が躍りました

冷え込みし今朝の朝一贈り物ブランケットを掛け一時まどろむ

チッチと小鳥は夜明けと共に鳴き昼にも鳴きて吾が庭になく

今朝早く小鳥の声に目覚めたりチッチと鳴く声に癒されをりぬ

利尿剤をのみをりひん尿となりにけり夜何回も小用に立つ

信州より送りこし松本一本ねぎカレーうどんに刻み入れたり

キャベツ野菜人参大根刻むなり娘啓子との共同作業

バスに乗り又フェリーにものり九州の亡夫との三人旅は楽しき思い出

薄氷

豊川　山口千惠子

庭に置く水甕に浮く薄氷とけず静かな夕暮れとなる

新聞の見開き一面色刷りのおせちの広告蟹の広告

訪ねきて伊勢の土産と祖母われに渡して行きぬ伊勢醤油の小ビン

背丈伸びすがしき青年になりし孫久しぶりなり仰ぎ見るわれ

夜の更けて窓打ち雨の降り始む今年は未だ雪の降らざり

へだたりし二本の電柱の天辺に止まりし鴉鳴き交はしゐる

とび立ちし二羽の鴉は連れ立ちて社の森の方に飛び行く

枝に刺すみかんいつしか喰はれゐる丸く皮だけ枝に残れる

柚の実を売りゐる無人販売所買はむと手にとる一つ包みを

竹筒の穴に硬貨を落し入れ柚を買はむ無人販売所に

門松の片付けられて常の日の冬陽あまねし鎮守境内

庭隅に朱実かがやく千両を切りとり正月の花に加へる

うっすらと青く見ゆる休耕田弱々麦の芽生え始むる

正月に集へる孫ら夫々に若さ楽しみ励みゐるなり

すっくと立ち赤々アロエの花の咲く触れつつ行きぬ散歩の道に

店仕舞ひ

蒲郡　杉浦恵美子

店仕舞ひの総菜屋店主がシャッターの張り紙幾度も張り直してゐる

この店に幾度通ひしコロッケは蒲郡一と店主言ひけり

コロッケが食べられなくなるそのことが歳末侘しきひとつとなりぬ

歳末の在宅独りは侘しかりはてさて旅に出でむとするか

歳末の旅は成る丈家からは遠きに限るいざ鹿児島へ

フェリーとはどうやらクルマの為にある歩めど遠し大阪南港

出港の銅鑼は鳴れどもデッキには人はぱらぱら見送りもなく

ゆるゆると岸壁離れば埠頭にはたったひとつの青色灯揺れ

フェリー旅終りは大隅志布志港出港同様そそくさ下船

さて次はバスに揺られて錦江湾左回りに鹿児島中央

迷ひ抜き末に諦む薩摩切子ふと思ひ出づ鹿児島再訪2

かの時は二度も店舗を訪ねしに何故か諦む切子のぐい呑み

薩摩切子夫と暮した日々にこそ要あれ我には不要のぐい呑み

露天湯に浸れば天空西東月と日浮かぶ指宿温泉

露天湯に浸りて日と月眺むればおのづと浮かぶ今年のあれこれ

寒き日に

大阪　伊藤忠男

底冷えの朝が明ければ白銀の世界広がる我が家の前
テレビから流れるニュース雪だよりあちこち被害他人事でなし
まだ誰も通らぬ道に靴の跡初めて記す感動の時
白雪に覆われすべて隠される純な気持ちに立ち帰りたし
雪解けにつれて姿を見せる街一つ一つが新しく見え
我よりも前行く愛犬尾を振って雪踏みしめてはしゃぐなりけり
愛犬の茶髪も雪で白くなるこれはこれとて可愛さを増す

薄暗く雪降り続く冬の朝空を仰げど陽の気配なし

夜明け前肩に積もりし雪払いいつもの道を通う寒空

人出なく町は閉ざされ薄暗し雪の白さが一つの救い

降りしきる雪の中でも鳥の鳴く声につられて窓開けるなり

庭の木にアオジかツグミジョウビタキ愛しさあふれつい声かける

雲間より微かに漏れる日の光受けて白銀さらにさらなり

友嘆く航海出るはお預けか体（からだ）づくりで暖を取るなり

我が家では炬燵カイロにストーブと熱い紅茶でひと時の春

庭中改修

豊川　白井信昭

音羽川左方周りに堤防を一筆書の如く帰り来たれり

明け方の暫し夢の中「さっくんさっくん」と妻の呼ぶ声

昼時の息子買いくれし穴子寿司家族四人(たり)と洋間に味わふ

冬晴の午後をラグーナに妻と孫と乗るがら空き観覧車

ひと回り心ゆくまで楽しめて至福の一時空中散歩

二階部屋狭き廊下と久しぶり孫の片車新幹線見る

乃木山南山(のぎやまみなみやま)より真向かへる三谷温泉の色褪(あ)せし宿

南山ラバーズヒルズに見渡せる大島小島竹島の海

庭中の路の改修揃へたるコンクリートの豆板九枚

検査うく造影剤のみ幾枚か一時仰向き容易(たやす)く撮れり

洋間の日当(ひあたり)悪く部屋の内ストーブの油へりゆく早し

この冬の最強寒波襲来に水道栓にビニール袋まく

荒風の電線ならす音きこゆわがベッドの上毛布に包まる

この月も通院予約泌尿器科装具一式携へてゆく

庭中の物干一台ようやくに元の位置に戻し了へたり

黒富士

埼玉　矢崎直人

元日をテレビの前で過ごしけり休みの休みらしかる休み

広告のぶ厚き朝刊元日の厚くて持てぬ広告の束

車とかマンションだとか買い物の大き宣伝正月らしく

休日は自分のペースやることもなすこともやる守るるペース

抜くとこは抜いて仕事と休みの日バランスとって心身息抜き

歯を磨き箱根駅伝見ていたら花の水やり思い出したり

東山魁夷の暦（こよみ）部屋に掛け魁夷の富士を走って見つけ

当たり前自分が思う事なれど人によってはそうにはあらず

動じるか動じないのか試されて私も私確かめている

公園で落葉拾いを見守りぬ家に帰ればただただ眠く

機を捉え摑んで発す言の葉の気をみることの生きている言葉

雪が降るそうかもしれぬと思うなら朝は早めに出発せねば

大雪の警戒ばかり大声で宣伝されて関東晴れり

散々に大雪大雪脅され今日はすっきり冬晴れの空

黒富士に携帯カメラ向ける子とそれを見てる子同じ鞄の

『ことよせ』

西浦公民館　いーはとぶ

朝の風頬を冷たく撫でてゆく今日の始まり背伸びしてみる

剪定を終へし枝元冬鳥の鳴きつつ飛ぶを温き部屋に見ゆ

ひもすがら雨降りつづきすべもなし老いそれぞれに籠もりて過ごす

山　﨑　俊　子

帰郷せし正月休みの息子ゐる家族四人で酒を数の子を

わが息子と仕事の話すいつの間になりたりしかな社会人の顔

会議終はり近くの店にて一人ランチ鶏（とり）ごぼう飯（はん）の湯気感じつつ

伊　藤　晴　江

ころころと戯れ合ふうり坊愛らしき小春日和の里山の道
小舟ゆく静かな海の若狭湾美浜ともんじゅのふいに現る
気比の宮被疑者と共に祀られし仲哀天皇何思ふらむ

水野絹子

わが畑の育ちすぎたる大根は土の中にて丸きを保てず
年の瀬の寒さに負けず水仙は新年を待ち蕾ほころぶ
年齢の上がるにつれて孫達は家族揃ひて帰省のならず

牧原規惠

看護師の娘は今は防護服院より出でたるクラスターの為
凍てつける空見上ぐれば鉄琴の響きあふよな星の瞬き
不穏なる世の中なれど年末の買ひ出しはなぜか心浮きたつ

稲吉友江

こんなにもディズニーランドが好きなんだ姪の婚続くミッキー踊る
姪の婚ディズニーランドに続き続くつひに私もミッキーに手を振る
東京より帰る道すがら足柄に金太郎さんのもしやゐるかと

鈴木美耶子

わが庭の宮城野萩の黄葉のしだれてをりぬ師走来たるよ
子供らの通学路ゆく足音の聞こゆ厨に今朝も立ちつつ
花会に黄葉進みゆくひば、松にブルーキャッツアイの紫映へて

吉見幸子

夕まぐれ家族の帰る家々か明かりながめつつ先ずは戸締まり
「音がへん」すぐさまミシン止めてゐる三回目になる授業の落ちつき
五年生はミシンに慣れてきたやうに指を広げて布おくりだす

牧原正枝

中学校Ｘマス中庭コンサート歌とギターは校長先生

輪になりて「太極の花」を演舞する鴨は頭上をＶ字なして往く

持病ある母を耳鼻科に連れて行く外出許可に三姉妹そろひ

森　厚子

現代学生百人一首

東洋大学

プリクラで可愛く写る女たち男よ気を張れ実物ちゃうぞ

山口県立岩国商業高等学校三年　友座（ともざ）　猛（たける）　18歳

政府から「不要な外出控えてね」時代が僕に追いついたようだ

阿南工業高等専門学校一年（徳島県）　渡邉（わたなべ）　響綺（ひびき）　15歳

毎朝のあるようでない指定席いつもの顔ぶれあと何回か

香川県立三本松高等学校三年　金地（かなじ）　皐希（こうき）　18歳

認知症祖母の中から消えていく自分の名前大切な物

高知県立安芸桜ヶ丘高等学校三年　楠瀬（くすのせ）　蓮（れん）　18歳

コロナ流行り「気をつけろよ」の友のLINEアイツもたまには優しいんだな

大牟田高等学校二年（福岡県）　**秋根（あきね）　周典（しゅうすけ）　16歳**

夏の夜や君の笑顔を思い寝る明日は言いたい「月が綺麗」と

福岡県立筑紫高等学校一年　**境（さかい）　拓真（たくま）　16歳**

外練の赤い日焼けを見るたびに「今日どうだった」と笑う母親

佐世保市立柚木中学校二年（長崎県）　**椎葉（しいば）　藍香（あいか）　13歳**

中継を見ながら過ごした祈りの日いつも以上に思いを込めて

佐世保市立柚木中学校三年（長崎県）　**山本（やまもと）　ほのか　15歳**

『俳句』

冬ざれやトロッコ列車客五人　植村公女

逢うことの遠のいてをり水仙花

狛犬の阿の口に置く木の実独楽

冬将軍上野野山に兵馬俑　木村歩歩

初春やシャコンヌ響く奏楽堂

受験日に母の励まし鰤大根

来てみれば探梅の丘造成中

かいつぶり水紋緩く春近し

弘前の城や濠橋松に雪　今泉如雲

庄内の山は真白に周平忌

浴槽はアオモリヒバや初湯殿

寒声の調子はずれになりにけり

左でも右でもなくし冬に向く

いつまでも死ななゐつもり柚子絞る

赤まろし赤極まりぬ実南天

神とゐる心になりぬ冬安居

今泉由利

初茜歩道橋から眺む富士

冬青空川沿いの道行く仕事

冬青空山脈遙か北に見ゆ

朝走る凍れる見沼代用水

雪催ひ藪に消えゆく三毛の猫

矢崎直人

川口カルチャー受講者自作自詠俳句集

捨案山子役目おわりか我は未だ　秋山

天高く風に一声秋きたる　雅山

夏の草畑の中で戦かな　金子

ひらひらと落葉舞い散るかるいざわ　恵風

年の瀬に次に期待す蹴る足を　秋山

衣替え一雨一度の寒さかな　雄山

母ここに冬のくれない共にみる　貴山

姨捨の棚田の水も光る春　雄山

柏手の響きよろしく初参り　秋山

春雨が吾が身を洗う墓参り　精真

八百杉や樹齢二千の神の島
一声で作者の思い吟世界
金沢は雷り落ちる雪の中
阿蘇の山野焼きを待って新芽さく
新旧の共存するや隠岐の夏

雄山

電車道金柑たわわ秋日和
混浴の湯に足浸す初稽古
お正月柱のきずの背比べ
木道を踏む足重し春は未だ
北風に帽子流され我走る

秋山

五感を澄ませば（9）

杉浦恵美子

距離感

先日、高校時代の友二人が我が家を来訪。

実はそのうちの一人が以前から会いたがっていたものの、コロナ禍や不要不急でもありで長い間延び延びになっていました。

その間ものぐさな私は、会うことに消極的になっていました。何しろ半世紀もせいぜい年賀状の遣り取りくらいのお付き合い。

会わない間にお互いの生活も経験も興味も大きく隔たり、果して話が合うのだろうかと。

何とか予定を合わせて、名古屋の友を西尾の友がクルマに乗せてやって来ました。

ところが出迎えて、二人の声を聴いた途端、何と我がこころは一気に高校時代にワープ。

懐かしいとかでなく、眠っていた「十七歳のわたし」が目を覚ました感じ。

それからは三人とも夢中でお喋り。高校時代のエピソードをそれぞれの角度から語り合って、時には記憶の補足や記憶違いの修正も幾つか。

三人が十七歳の正義感や価値観でお喋りした結果、距離感が縮まるどころか、むしろ仲間意識を再確認したくらい。

尤も友たちには六人七人の孫がいて孫の話をされると現実に引き戻されましたが。

と云うわけで、最初の気乗りの無さはどこへやら、また会おうね、と約束して別れました。

さて、距離感が縮まった話とは反対に、私が作歌の上で距離感が遠のく感じがするある助詞について考えてみたいと思います。

「感じ」なので単なる思い過ごしかもしれませんが、それは「で」という助詞です。

助詞「で」には沢山の用法・意味がありますので、ここでは、格助詞「で」のうち、「⑴その動作・作用が、どんな場所・場面において行われるかを表わす。」（『新明解国語辞典』三省堂）という用法について考えてみます。

辞書的説明は堅苦しいですが、要は「ここで暮らした」「駅で待ってる」「うらのはたけでぽちがなく」などの「で」

です。

私の場合、歌にこの助詞を使おうとすると何か距離感が出てしまうというか歌としてしっくり来ないのです。

どうしても使いたいときは古語の「にて」に置き換えてみますが、それでもあまり成功感がありません。

それは何故なんだろうと、辞典類を幾つか調べてみるのですが、これはという説明に未だ出合えていません。

そこでこんなことを試してみました。

石川啄木の代表作、

東海の小島の磯の白砂にわれ泣きぬれて蟹とたわむる

の「白砂に」を、「白砂で」と入れ替えてみました。「に」と「で」の意味・用法は概ね同じなので。

東海の小島の磯の白砂でわれ泣きぬれて蟹とたわむる

ニュアンスが明らかに異なります。

実は「に」の方は「白砂に（座って）」という説明部分が省略されており、それによって歌の奥行きが感じられるのですが、これを「白砂で」としてしまうと、もうどっしりと白砂に腰を据えているようで、こうなると下の句の烈しい感情の動きがぶち壊し。

つまり助詞「で」は、歌に使うと距離感が出るという訳ではなく、断定的な語感があるようで、歌に余韻がなくなるのかもしれません。

またこの歌には「東海の小島の磯の」と格助詞「の」が三つも使われており、これは滑らかな繋がり効果があって口ずさみやすい。

いやはや日本語の助詞は奥が深いし難しいものです。

けれど助詞あってこそ複雑な表現が出来る日本語を誇らしくも思います。

ところで、来訪した友人の一人がどうしても私に会いたかったのは、あることで私に謝罪したかったのだそうです。

私の方はもうよく覚えていませんでしたが、友は半世紀抱えていた懸案が解消されて実に晴れやかな顔をして帰って行きました。

そんなにも悩んでいたか我が友よ我はなんにも憶えてゐない

附　録（九）

矢　崎　直　人

【富嶽三景】

私が日頃富士山を眺める場所が三か所あります。そういう場所があると今日はどんな様子かと眺めるのが日課になります。

まず、自宅のベランダから見える富士山。マンションの四階に住んでいて晴れていると富士山がよくみえます。特に秋から冬は空気が澄んで晴天の日が多いので綺麗です。草花にみずをやりながら見ています。

次に歩道橋から見える富士山。今まで毎日夕方になると家の周りを走っていましたが平日は仕事に行くようになってから、休日の朝、見沼代用水沿いの公園まで行って走るようになりました。その途中で歩道橋を渡る所があって、そこから富士山が見えることに気が付きました。新しく富士山が見える場所を見つけると嬉しくなり、ジョギングに行くのが楽しみになります。最近は、最低気温が氷点下になって川が凍るのを知りました。

初茜歩道橋から眺む富士

朝走る凍れる見沼代用水

二〇二三年は東山魁夷の絵画のカレンダーを部屋に掛けました。「黎明」一九八〇（昭和五十五）年は富士山の絵です。雲海の上に茜色に染まる富士山が描かれています。元日に見沼代用水の脇の公園に走りに行きました。歩道橋の上から見た富士山は魁夷の絵に描かれた富士のようにとても美しかったです。

東山魁夷の暦（こよみ）部屋に掛け魁夷の富士を走って見つけ

そして、職場の通勤途中に見える富士。職場とバス停までの間の道を歩いていると富士山が見えます。帰りに夕焼け空に浮かぶ影絵のような富士山は、赤く日に染まった富士山は赤富士と言いますが、シルエットのような富士山は黒富士というそうです。そんな富士山を見ながら歩いていると、学生が携帯電話のカメラを富士山に向けていました。自分が美しいと思ったものを他の人も美しいと思うのを知るのは楽しいです。一人がカメラで撮影しているのを他の人が見ていました。同じ鞄を持った学生でした。

黒富士に携帯カメラを向ける子とそれを見ているジョギングの僕

『セールスマンはセールスに弱い』

中屋保之

一月の末頃だったか、〝「屋根修理が必要」と　うそ〟という新聞記事が目に飛び込んできた。報道によれば、消費者宅に突然訪問して、壊れていないにも拘わらず「すぐ修理が必要」との虚偽情報をもとに契約を迫る手口の業者に対して、関東経済産業局が業務停止命令を出したというものである。

実はこの報道の一週間ほど前に、私は全く同じ手口で契約寸前までいった体験をしている。後で思い返すと、ゾッとするが、幸いにも家族や近所の人たちのおかげで被害に遭わずに済んだ。経緯は、何気なく玄関先に出た私に、「この近所で工事をやっている者だが、通りがかったらお宅の屋根に修理の必要があるかもしれない個所が見つかったので・・・」と、若い男が話しかけてきた。齢の頃なら私の孫ほどであろうか、その容貌と〝ある！〟ではなく〝かもしれない〟という話しぶりにその時は誠実そうに見えてしまった。更に迂闊にも、屋根の状況を写真に撮って説明したいとの申し出でに乗って家の中に招き入れるという失態を犯した。次に、撮った画像の説明をしながら、予定している工事現場の監督という肩書の男性とともに見積書の提示まで、あれよあれよという間に話が進められた。提示額はなんと「百ン万円」‼

とても払える金額ではない、しかも一括払いだという。何度かの交渉の末、最初の提示額の七掛けほどの見積書が私の手元に残された。潤沢な余裕資金があれば恐らく本契約してしまったかもしれなかったが、そんな余裕などない。これが私には幸いした。二人が去ったすぐ後に、息子にメールで経緯を知らせたその返信で我に帰ることが出来た。どうもおかしいぞ、前にも同じような手口でアプローチしてきて断ったことがあったのを思い出してきた。近くで工事を請け負っているついでって言ってたな。ほんとかな?と思い至り、近所を、、見て回ったがどこにもそんな形跡はない。何人かの人たちに尋ねてみたがそんな予定は聞いていないという。そうこうしているうちに、隣人が屋根を見てくれた結果、すぐの修理など必要ないと言ってくれた。いくらか前に燐宅にも同じ手口の誘いがあっ

たそうである。

思い起こせば、向かいのお宅にこんなこともあった。よく〝いらなくなった家具や映らなくなったテレビなどを無料で引き取ります〟と小型車で回っている業者に、大型のソファを引き取ってもらおうとしているところに出くわした。かつて私もその類の業者に危うく騙されそうになったことがあったので、一緒に対応して事なきを得た。決して「無料」などではない。このように、人さまのことでは冷静なジャッジが出来るのに、我が事となると簡単に騙されるというのが人間の性なのであろうか。はたまた、私個人の未熟さ故の覚束なさであろうか。とにもかくにも、今回のことで、隣人、近所同士での助け合いやお互いの見守りの大切さが身に沁みた次第である。

こんな体験談を、自戒を含めて友人たちに披露したところ、「実は私も・・・」「事例は違うけど、危なかった」など数多くのメールが届いた。共通していたのは、私も含めて「私だけは大丈夫」という過信である。

一九七〇年夏、私は最初の赴任地である長野の商店街を歩いていて、同年代とわれる青年に声をかけられて立ち止まった。ブリタニカという百科事典を扱う会社の新入社員だという。彼が言うには「ノルマを達成するのにあと一件」だとの事。同じような境遇の私には他人事とは思えない、そんな気になってしまったのである。当時の給料の三か月分ほどの買い物をしてしまった。全二十巻ほどだったと思うが、相当な重量のこの「お宝」は、転勤の度についてきてくれたが、さしたる役にも立たない飾り物としてかなりの期間我が家に鎮座していた。今となっては、彼が新人だったのか、ノルマの達成が出来たかは知るすべもないが、事程左様に『セールスマンはセールスに弱い⁉』というのが、私の言い訳がましい持論である。

これを教訓として、Better safe than sorry.（用心、用心‼）を胸に刻もうと思っている。

楽しい時間　124

山本紀久雄

2023年1月31日

「明治天皇が鉄舟から得た判断基準」その九

明治4年（1871）11月12日、岩倉具視全権大使と大久保利通・木戸孝允含む107名が出発した。国内で留守を預かったのは太政大臣三条実美と西郷隆盛であった。

岩倉、大久保、木戸の欧米滞在中に、それまで天皇像イメージ形成にあまり影響力のなかった西郷隆盛が、次第に関係を強めていく。

その最初が、岩倉使節団出発直後の明治4年11月、官営の横須賀造船所への行幸である。初日は軍艦で横須賀を往復し、造船所を視察、2日目は乗馬での視察、天皇が陸軍の演習以外で乗馬での行幸は初めてであった。

また、御親兵の訓練を見学するため、日比谷門外の訓練所に乗馬で行幸し、西郷が出迎えたように、西郷が岩倉等の留守政権を主導し始めると、武士を原型とした「大元帥」イメージを強めるような行幸が行われていった。

西郷は重々しい儀式や乗り物・服装で天皇を権威づけるよりも、天皇自身が質実剛健で実質的な能力からくる威信によって臣下を引きつけ、天皇と臣下の相互の親密な関係を作るべきだと考えていた。

そのためにも軍事関係を中心に、軽装で馬に乗って行事に出発することなどは、天皇像形成に望ましい必要不可欠な必要な行動であり、それは、岩倉や大久保の考えるよりも、もっと形式にこだわらない天皇像であって、明治天皇も西郷の意向に積極的に応じたのである。

明治天皇の姿を一般民衆に「見える化」し、天皇イメージを決定的にしたのは六大巡幸であった。一回目の巡幸は、明治5年（1872）5月23日、明治天皇は騎馬で皇居を出発、品川沖に停泊する旗艦龍驤（りゅうじょう）に乗船、供奉するのは西郷と弟従道等70余人による近畿、中国、四国、九州巡幸である。この巡幸期間中において、明治天皇は西郷と毎日顔をあわせているうちに、西郷の人物像がさらに分かってきて、結果として西郷が持つ人間性にひかれていったのは無理からぬことで、天皇の「武士的変化」は西郷の個性によるところが大であることは間違いない。その一片を語るのは天皇より二歳年長と年齢の近い、親しかった公卿の西園寺公望の次の回想である。

《落馬して痛いと言った時、西郷は、どんな事があっても痛いなどとはおっしゃってはいけませんとたしなめたという》（『明治天皇』伊藤之雄著　ミネルヴァ書房　2006）

西郷について晩年まで天皇がよく語った逸話がある。

《六月十七日。午後四時に長崎港にはいる予定だった軍艦が、ともの三艦は無事入港できたのに、港の近くにきて、お召艦「竜驤（りゅうじょう）」だけが立ち往生して二時間近くもうごかなくなった。へいぜいは、喜怒哀楽をちっとも顔にあらわさぬ西郷が、この時ばかりは、顔を真っ赤にし、どんぐりのような目をむいて、

「よりによってお召艦の入港をおくらせるとはけしからん。お上に対して申しわけないではないか」と、たいへんな剣幕でどなりつけた。

艦長の伊東祐麿大佐（のちの黄海海戦の祐亨元帥）は、おび

えきって一言も出し得ず、海軍少輔（次官）の河村純義が、「いいえ、いいえ。それは、いいえ」と、取りなし顔に、さかんに手をふって言いわけをしようとするが、うろたえて言葉をなさない。

「いいえじゃわからん。どうしたんだ」と、第二のかみなりが脳天の上からおちてきた。

実際は長崎港が浅いのに、竜驤艦は吃水が深い。海軍で潮時をはかりそこね、入港の時が引き潮にさしかかったのだ。それがわかり、別に大した手落ちでもないので、西郷も怒喝をおさめたが、一時はみんなどういう事になるかと、気をもんだ。

日ごろ柔和な公卿や女官ばかりにかしずかれておられた天皇には、これがまことの「男の怒り」の初印象だった。世のなかには、こうも激烈な感情があるものかと、びっくりせずにはおられぬほどだった。

しかしその怒りの底には、天皇に対する心からの敬虔と、誠実があふれている。しかも事情がわかると、すぐ機嫌をなおしたのは、しんねりむっつりしている公卿には、まったく見られない磊落な態度だった。

「これが世にいう英雄の心事というものか」という気が天皇にはしたのだ。

「あの時の西郷のかんしゃく玉ときたら、たいへんなものだったぞ」と、これは晩年まで、よく臣僚たちの陪食の席で出た話である。

（『明治天皇』木村毅著　文芸春秋　1967）

このように西郷に対する明治天皇の信頼は厚かった。

岩倉使節団が出発した後は、「西郷政権」というべき政治が行われ、西郷が持つ「武人的個性」によって影響された明治天皇は、質実剛健で実質的な能力によって威信と信頼を高めていった。さらに、西郷の推輓（すいばん）で侍従となった鉄舟についても、剣・禅修行で鍛え抜いた「本物の武士」という姿が皇居火事において顕現化し、西郷ともども強い信頼を天皇から受けることになった。

ここで西郷政権に対する評価について、福沢諭吉の「明治十年丁丑公論（ていちゅうこうろん）」からみてみたい。というのも、西郷の業績に対する分析評価は数え切れないほど多くの識者が行っているが、その多くは西郷死後数十年を経た後に述べているものが多く、当時に生存していた人物によるものは少ない。

「明治十年丁丑公論」は明治10年（1877）西南戦争直後に脱稿され、明治34年（1901）に時事新報紙上に掲載され、福沢が当時の政情を分析し西郷擁護に立って述べたものである。

《西郷は天下の人物なり。日本狭しと雖も、国法厳なりと雖も、豈（あに）一人を容るゝに余地なからんや。日本は一日の日本に非ず。国法は万代の国法に非ず。他日この人物を用るの時ある可きなり。是亦惜む可し》（『近代日本思想体系2福沢諭吉集』　編集／石田雄　筑摩書房1975）

また、『敬天愛人　西郷隆盛四』（海音寺潮五郎著　学習研究社　2001）が以下のようにまとめているので紹介したい。

《『丁丑公論』という著述の中に、「西郷が留守政府をあずかった二年間は国民は悦服（よろこんで心から服従する）して不平がましいこともなく、知識人らは言論の自由を享受して、自由闊達な議論を発表して、最も楽しい期間であった」といっています。この点では、西郷は立派に留守をあずかったのです》

福沢諭吉の西郷政権評価を、海音寺潮五郎は妥当と判断しているのである。

その西郷が鹿児島に戻ってしまった。これは明治天皇にとって大事件であった。

『酔いの徒然』（一三一）

丸山酔宵子

『RRR（アールアールアール）』

令和5年の幕が開けコロナ禍もだいぶ落ち着いてきた今日この頃、日本のブロードウエイ日比谷・有楽町界隈のロードショー館は話題作で活況を呈している。

木枯らしが日比谷ミッドタウンの広場を吹き抜ける中、コートの襟を立て厚手のマフラーを巻いて、TOHOシネマズに入っていく人の波が続く。

コロナ禍前は、週3回、年間１６０本程度の映画を見ていたが、コロナ禍では週2日ペースで１００本程度に減ってしまったが、今年も、「モリコーネ」「スラム・ダンク」「非常宣言」「Legend & Butterfly」など順調にロードショーを堪能している。

そんな折、今、大変な話題となって、予約が取りにくいインド映画「RRR(アールアールアール)」の予約がやっとのことで取れ、勇んで有楽町松竹ピカデリーへ。

木枯らしに背中おされてロードショー

酔宵子

有楽町マリオンの松竹ピカデーは、アイマックス(IMAX) を越えた最新の映像設備「「ドルビー・シネマ(DOLBY CINEMA)」を誇り、素晴らしい大画面の映像と音響の中での「RRR（アールアールーアール)」である。

英国植民地時代のインドを舞台に、二人の男の友情と使命がぶつかり合う様を豪快に描くアクションエンターテインメント。インド映画の至極の歌と踊りが銀幕一杯に繰り広げられる。

３００席ほどの客席は全て埋め尽くされ見事に満席。インターミッションもない3時間にもわたる緊張の連続の中、流石に数人は我慢できず駆け込んでいたが、ほとんどの観客は画面に釘付け、エンドマークが出ると割れんばかりの拍手である。

インドは、年間映画制作本数も映画館観客総数も世界一の映画大国である。娯楽としての質や出演女優の人気

などのため、インド国外でもインド系住民を中心に人気があり、東南アジア、南アジア、西アジア、アフリカ諸国でも高い人気を博している。特に、北インドを中心にインド全土で上映されているヒンディー語の映画は、その制作の中心地であるムンバイ（旧ボンベイ）をもじってハリウッドに対抗して、「ボリウッド」と呼ばれている。

多くは3時間前後の大作が多く、勧善懲悪のシンプルなストーリーの娯楽作で、ストーリーの途中で場面ががらりと変わり、原色の豪華な衣装、多数のバックダンサーによる豪華絢爛のミュージカルシーンが挿入され、歌や踊りを十二分に堪能する事ができる。

インドの娯楽映画はアクション・メロドラマ・コメディ・歌・ダンスなど娯楽作品としての要素を雑多に含んでおり、これらは「マサラムービー」と呼ばれていて近年人気が上がっていたが、最近はインド経済成長とともに、内容もかなり洗練され「スラムドッグ＆ミリオネア」でアカデミー賞を受賞するまでになっている。

月光に踊る美女待つマッチョかな

酔宵子

インド映画でいつも感心するのは、主演女優陣の美しさである。彫りの深い気品にあふれ健気な女性が必ず出てくる。それともう一つ、美味しそうに食べる食事である。右手で、巧みに総菜とお米を取り上げ、美味しそうに口に含む。

左手は「不浄」で右手は「浄」。右手で必ず料理に直接触れて、調理された食材の触感を楽しむためなのだそうだ。豪華な器に盛られた美味しそうな様々な料理を、実に器用にまた見事に食べつくすのである。

3時間の興奮の後、有楽町マリオンを出ると、数寄屋橋交差点はすっかり冬の夕暮れ。相変わらずの木枯らしが更に首を竦めさせ、ボルサリーノが吹き飛ばされそうになる。矢張り今夜は熱燗か・・・。

数寄屋橋を右に行けば日比谷当たりのガード下もいいが、左に行けば3丁目当たりの立ち飲みもいいが・・・。

すきや橋今宵熱燗みぎひだり

酔宵子

習志野市讃歌（市制六十周年記念）
世界に響け　習志野よ

高橋育郎

一　薔薇は幾重に　咲き誇り
甘い香りが　満ちている
ここは習志野　ふるさとよ
微笑み交わし　健やかに
生きる喜び　讃えあう
世界に向けて　伝えたい

二　潮が香るよ　海辺には
水鳥群れる　楽園の
ここは習志野　谷津干潟
豊かな自然　この恵み
みんなで守ろう　ラムサール

きらめく希望　舞い飛ぶよ

三

輝く太陽　青い空
若さあふれて　歓声が
ここは習志野　スポーツの
盛んなところ　名も高し
脈打つ躍動　風さやか
開ける未来　洋々と

四

楽の音いつも　鳴り渡る
奏でているよ　幸せを
ここは習志野　音楽の
街があしたの　夢を呼ぶ
みんなで創ろう　文化都市
世界に響け　習志野よ

絹の話（１４８）

「アトリエトレビ」今　泉　雅　勝

絹と不老長寿

生きとし生けるもの、人ばかりでなく動物も昆虫も草木に至るまで全て長寿を願っています。

一生が僅か30日余りという昆虫や1年という魚も数多く生息していて、命の短いものほど繁栄しています。人間はどのように対処して来たのでしょうか。

人間の歴史は長寿への願望の歴史でもありました。今日の日本は既に高齢化社会の域に入っており、今後はどうして若さと健康を維持して行くかを志向して行かねばなりません。

中国の不老長寿、不老不死の思想

中国の黄河文明を発展させた漢族に陰陽という二者択一の思想があり、その考え方が深山幽谷に不老長寿の仙人が住むという思想を育んで来たのではないでしょうか。

不老長寿のためには桃がよい、干し無花果が良い、脱皮する蛇や蝉が効く、など多種多様なものが試されてきました。菊の花に囲まれ、それを食べている仙人は25歳の容姿で７００歳までも生きたという話を産んだのです。

中国では３０００年以前には「薬膳」という考え方ができていた様です。道教が確立して来るとその考え方は更に先鋭化して権力者は不老不死でありたいと願うようになり、中国の春秋戦国の戦乱を統一した秦の始皇帝は不老不死の霊薬を求めて八方手を尽くし、徐福をして東方海上の蓬莱山にそれを求めに二度も旅立たせましたが、徐福はその妙薬を持ち帰る事はありませんでした。始皇帝はその間に不老不死になるという水銀入り薬を飲み49歳の若さで亡くなりました。

インドの不老不死の思想

インドの不老不死の思想は「人は全て輪廻のもとに生きている」ので、死しても新たに生まれ変わった命に次代を託し、不死を実現して行くというものです。仏教では人は生前に善行を重ねれば次世にはより良いものに生まれ変わると考えるので、死者が生まれ変わりを模索する49日の内は霊が迷はないように読経をします。

巨大な墳墓

古代の権力者の墳墓にはピラミッドや仁徳天皇墳墓のように巨大なものがあります。

埋葬方法はいずれも生前を思わせる様に設えられてい

ます。これも不老不死の願望からなのでしょうか。

日本の不老長寿、不老不死

健康で長寿でありたいとの願いは、日々の水に気を付け、季節の物を食べ、腹八分目などの薬膳的な考え方が一般的であった様です。

極東の祖先崇拝では人は死してもその霊は天空に留まり、お盆の迎え火や霊媒師の祈祷によって戻って来ると考えられていました。

地球上の生物の繁栄

地球上で最も繁栄している生物は昆虫です。

それらの多くは蚕の繭ばかりか、蜂の巣やカマキリの巣も絹であり、その成分が卵や蛹などを保護しています。絹は生物のゆりかごです。

不老長寿の妙薬は絹

徐福が蓬莱の国に旅立った頃の中国は絹生産が盛んで、絹は交易や戦略の重要物資となり、絹の兵装の戦果は著しいものがあり、絹を着る事で無病息災の助けになったと思われますが、徐福は長寿ではなく不死の薬を求めていたので絹の事は「燈台下暗し」だったのでしょうか。

絹の機能性は最近判って来たことですが、人は年を取るにしたがって老化現象を助長する活性酸素が増加して、それを中和する能力が衰えて来ますが、絹にほんの少し含まれているシスチンやメチオニン等のアミノ酸が体外からでも僅かに活性酸素の中和に機能して老化予防に役立っているのではないかと考えられる様になりました。

親和性に富んだ絹は温度湿度を肌に優しく調整し血行を促進させ、絹の柔らかさとそれを構成するアミノ酸が幸せホルモンの分泌を促し、雑菌などの繁殖を防ぎ、紫外線からも身を守ってくれ、皮膚のコラーゲンの減少も抑制すると思われるので、絹は不老長寿の妙薬と言っても良いではないでしょうか。

昨今の絹製品は化粧品はもとより食べる絹として血糖値抑制のサプリメントや医療用縫合糸はじめ皮膚、骨、血管などにも利用され始めました。

絹は健康長寿

絹に囲まれた生活をしている人はそうでない人よりも風邪をひく事も少なく、肌ツヤも良い様に見えます。

絹は箪笥の中に仕舞い込まず、日常生活の中で普段に使える様に工夫してみる事をお勧めします。

布団カバーでも間仕切りやカーテンでも良いと思います。絹こそ不老不死や不老長寿には及びませんが、「健康長寿」の役立つ古くて新しい妙薬だと思います。

「江上浩二の独り言」63

江　上　浩　二

卒ＦＩＴという言葉と行動

卒という言葉は卒スで、亡くなる・死ぬこと、学校などを卒業すること。さて、アルファベットでＦＩＴとは英英辞書でみても多くの意味がある。今月、令和五年一月の二四日に我が家でもとうとう卒ＦＩＴを迎えるのだ。それは嬉しいか悲しいか、どちら側の情緒で表現できるのか、それとも全く関係ない事象で情緒なんてでは表せないとも言い切れないのである。正直言って十年もの間お世話になった事は間違いなく、本当に感謝しなければならない。わが家のデシジョンとして、オール電化にした。オール電化とはガスの供給も絶ち、事実、契約上ガス会社のメータを外す必要があり、安い夜間電力でヒートポンプを稼働し、お湯をドラム缶一杯分位を沸かし、普段の調理はＩＨ加熱方式で行うのです。そんな時期に照明器具も全てＬＥＤ電球とした。　ＦＩＴ（Feed-in-tariff）とは固定価格買取制度の事でソーラー発電を始め、再生可能エネルギーを十年間固定価格で買い取ってくれる制度の事です。これが終了することを卒ＦＩＴと言うのです。

例えば学校を卒業すると、次に新たに何をしたいのか、何をするのかが関心事となる様に、卒ＦＩＴでも次の手立てをよく考えなければならないのです。よく、キーワードとして目につくことは十年間高値で、例えば四二円／kwhで、送電グリッド網の管理電力会社が買い取ってくれてた発電電力をどこかへ安値（ｘ円）で売り渡さざるを得ない状況なのか、自前で蓄電池システム（大容量の蓄電池抱える電気自動車などを含む）を高額で投資せざるを得ない状況（百万円以上、ＥＶ車ならそれ以上、若干の公的助成金もあるが）の選択を迫られている。私も一年前頃から、新興蓄電池システムを開発提供している企業の資料を読み始め、昨年の夏ごろから来る卒ＦＩＴに対して良い案はないかと力を入れて調査を開始した。比較的直ぐに、私にとって、魅力的なシステムが提案されている事を知った。ここでは具体的なサービス名を書くと特定企業のものと判明するので、一般的な説明とする。それは、自前で蓄電池システムを持たないバーチャルシステムで、ソーラーの発電量と昼夜でソーラー発電量が自分の家の消費量を賄えない時に、grid 網から

電力を市場価格で買わなければならないのであるが、それをスマートメータで相殺してくれるという物である。普通家庭のソーラー発電では、電力の消費量＞ソーラー発電量　なので、一般家庭にとって莫大な金額を投資せずに済み、相殺された使用した分だけ電気料金を支払えば十分なのである。

一見どこにメリットがあるのだろうかと迷うが、現在電気代は１kwhで三十円以上で、買取価格八－十円よりもはるかに高いのである。ここで少し概算計算をしてみるが、十年前の購入電気代はわが家の実際値で１kwh当たり二十円を下回っていた時期もあり、そころの余剰買取価格が八－十円という数字でも、そう違和感はなかった。といいうのは、天然ガスを自前で採掘できる国の電力代金は七円レベルで、それでも少しは利益を出せると言われていた。それ以前では原子力発電によるコストは四円レベルとも言われていた。〈２０１１年の東日本大震災での福島原発事故で廃炉処理を含めたリアルな発電コストは四円ではとても済まない事が判明〉２０２２年末の時点での対ドル、円安１３０－１５０円、化石燃料コストの爆発的増加、諸々の諸経費のインフレ率の想定以上の高騰などの要因で２０２３年半ばに更なる価格上昇も予定されており、今の三十円／kwhを上回る電力価格のポテンシャルを相殺できるのである。そんなチャンスを八－十円で売り渡し、更に蓄電池システムという決して元が取れない投資には、私はgoを出せなかった。

課題はなぜ国を始めとする行政機関が卒ＦＩＴで助成金まで付与して、蓄電池システム導入を進めているのかというと、災害時停電というグリッド網からの電力供給がオフ状態になってもソーラー発電と蓄電システムで自律的に出来るだけ長く息絶えずにいて欲しいが為と季節的に訪れる電力逼迫時の負荷軽減である／これは最近わが家にリフォームで出入りしている企業の本音の話である。

かくして、卒ＦＩＴの次に、特に我が国日本は家の断熱化（冷暖房に有効）、省エネ化をあらゆる面で進めるということにつきると思います。

初狩便り（16）

花野みぷり

畦塗り

米づくりのポイントの一つは水の管理だ。田んぼと田んぼの間の土を盛り上げたところを「畦」（畔とも書く）と言う。畦は田んぼの水を支える大切な土の壁だが、この管理はなかなか大変だ。畦塗りは、田んぼを取り囲んでいる土の壁に田んぼの土を塗り付けて、割れ目や穴を塞ぎ、水が漏れないようにする。土竜や螻蛄は畦や田んぼで活動するので穴を開ける。水が漏れると、水の管理が大変になるだけでなく、せっかく田んぼに入れた有機肥料の効果も低くなる。代掻き前には、崩れた畦を治し、土竜や螻蛄の通り道を塞ぎ、水漏れを防止する作業が欠かせない。鍬で泥をしゃくり取り、畦の内側と上部に押し付ける。更に荒代掻きの時に、鍬で泥土を塗りつけて壁をつくる。大変な重労働で私にはできない。隣の田んぼのてっちゃんは畦塗りの名人。角はシャープで塗面はつるつる、あまりに見事だったので「本職は左官屋さんですか？」と訊いてみた。「百姓はこれぐらいみんなできるよ」との返事。米づくりの仕事はマルチタレントでないとやれないのだ。

（写真：菅野昌英・内山和夫）

本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬

本田のひとり言
https://hondachiro.exblog.jp/

2023年1月27日

生きていくことに必要な健康法

気温は低いながらも寒波の寒さを知ってしまうと
それほど寒くないような気がします
慣れというのは大切の反面　怖いですよね
この時期　便に問題が出る方が多くなってきます
それは　寒くなり腸の動きが鈍くなること
乾燥する割りに水分摂取量が減ること
などがあります
その為　3S＋ゆたぽん＋ヨーグルト＋八分
があります
これは
腸の動きを良くして基礎体温を上げ免疫を上げる
ことに特化していて
人間が生きていくうえで必要な事に対応している
オールラウンダーの健康法です
本田カイロの施術と3S＋ゆたぽん＋ヨーグルト＋八分
で
ほとんどの症状はカバーできると思います
ああそれね～　ではなく1個づつ確実にやってみて下さ
い
分からない事などがありましたら
施術の際に何でも聞いてください
これからも健康で生きていくために
今日も笑いながら行きましょう

2023年1月30日

腸内環境を整えてアレルギー症状に備える

以前の　本田のひとり言　で書いた
現在の花粉症の症状を引き起こしている　ハンノキ
今年は　そのハンノキのアレルギー症状を起こしている方が
とても多く感じます
それに加え　寒暖差アレルギー　なども併発して
ウィルス感染なのか何なのか
分からない方も多いかもしれません
前回も書きましたが
腸内環境を整え　基礎体温を上げ　循環を良くして
免疫力を上げて行きましょう
おかしいな　便通もいまいちだな　と感じたら
食後のヨーグルト（乳酸菌）の摂取回数を増やしましょう
例えば1日1回でしたら3回にし
毎回の乳酸菌の種類も変えましょう
もちろん自分の腸にあったものを
毎日続けることをお勧めします
今日も笑いながら行きましょう

康鍼治療院（www.yasuhari.com）　玄　翁

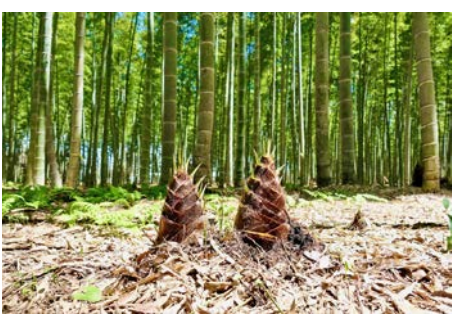
「春は陽遁」

春は陽遁　陽気が上がる
東風　木性　動きの気
この時　動けば　心身動き
動きが　命を養うぞ
陽遁　陽気の上昇で
陽の極まり　目指しつつ
動きや活動　促して
心身元気になれる時

身体を動かしゃ　筋動き
筋が動けば　血めぐり
血がめぐれは　内側の
脳みそ　内臓　動き出す
動きの基本は歩く事
いきなり走るは怪我の元
ゆっくり歩いて　太陽感じ
清気を吸い込み　代謝があがる
じわりとカラダが温まり
しっとり汗でりゃ　全体の
血脈めぐりて活発じゃ
これが先の　梅雨時期や
夏の暑さに　負けない身体の
体力　養う秘訣なり

春は心も　動く時
冬で篭った　心の動き
外に向かって　踏み出せば
精神は躍動　元気が戻る
若葉や桜や木々などの
春の季節を　楽しめば
心も気持ちも　広がるぞ
会いたい人には　対面で
面と向かって　会うことで
心の交流　促せば
感性豊かに　反応し
心が躍動　命を燃やす

春は陽遁　動きの季節
外に向かって動き出せ



「歯は命」

歯は命と共にあり
人の歯　精力　盛衰を
現す　命の尺度なり
人の人生　精の成長
歯にその状態　現れる

人の歯　食べるに必要で
食べ物　咀嚼し　消化する
咀嚼は唾液を促して
歯を保護して丈夫にす
しっかり　もぐもぐ　歯を養う
歯が無きゃ噛めずに飲み込んで
胃腸に負担がかかるのみ
胃腸が弱れば　栄養不足
精が弱って　老化する

人の歯　力を出す時に
噛み締め　顎での食いしばり
大きな力を生み出すぞ
歯が無きゃ　食いしばることできず
力を出せずに　弱くなる
寝る時　顎を緩めれば
力みで疲れた　身体は
脱力できて　歯も休まる

年齢重ねりゃ　精虚して
歯や骨関節　弱くなる
歯茎は痩せて　歯は長く
隙間も広がり　スカスカと
歯の色くすんで　色がつく
歯の衰えは　老化なり
気血の補充が弱くなり
足腰力も出なくなる

歯の養生は　老化の予防
歯が丈夫なら　元気は続く
日頃の養生大切じゃ
歯磨き歯のケア　命を助く
歯は命を左右する

台桜三月二日

櫻臺楼主人　精真

寧日空庭静寂の中
門梅の紅白は春風を誘う
台桜蕾を抱いて未だ猶動かず
唯芙蓉を望んで正気充つ

臺櫻三月二日（令和四年）
寧日空庭静寂中　門梅紅白誘春風
臺櫻抱蕾未猶動　唯望芙蓉正気充

（語釈）○寧日…安らかな日。○空庭…誰も居ない庭。　○台桜…テラスの桜。　○芙蓉…芙蓉峰の略。富士山。

（通釈）安らかな日。誰も居ない庭は静寂そのもの。梅の花は春を誘うかのようである。

一方テラスに枝を張る桜は枝に新芽を抱いているが、未だどうという変化は見られない。

ただ富士山を背景に正気が満ちてくるようだ。

※一年中桜に相対しながら過ごしている。未熟な漢詩にしながら観察を楽しんでいる。その様な習慣が身に付くと季節毎の桜の木の表情に意味を感じてくる。以来冬の桜の木も気に入っている。葉を落とすと云う事は無駄なエネルギーを使わないようにして、只ひたすらじっと耐えて次の生命を体の内に宿しているのだ。

年の暮れにいよいよ黄葉を落としてしまい、骨身になっている。一月や二月に雪が降り、その枝に雪を載せた姿は何とも言えない。

桜の右の方には富士山を観る事が出来る。枝に次の生命を宿した桜の木。清天の富士山がよく似合う。我が家の狭い庭に自然が織り成す正気が溢れている。

編集室だより【二〇二三年二月】

今泉由利

○もう外国へは行きたくない。今月期限が切れる十年間用のパスポートを前にして思案。
現実、外国住いの、外国を中心に働いている娘達がいるのだから、もう外国へは行きません…などとは言えない。

○私の戸籍のある役場が、見も知らぬところに引越し、想像出来ないことをするのは大変に嫌なことだけれど、仕方がない。新しい住所に、戸籍事項を、送っていただいた。

○これから先十年のパスポート入手次第。順番を待ったり、あれこれ間違いが無いか！調べがあり、家に有った写真を持参したのが、期限が切れるパスポートと同じ写真だったと。「だめ」だし。でも同じ所で、すぐ写すことが出来るシステムになっていて、クリアできた。そして、もう10年間、地球の上を動きまわれるパスポートを得た。
これから行きたい！と思う所は無くなってしまったけれど、日本とアルゼンチンと日本とアルゼンチンと、何十回よりもっと多くくり返した飛行機の旅の中間で、ひと休みするために用意した家がマイアミの海辺にあり…ここへは、また行ってみなくては…。家の前の海でくり広げられる、ペリカンがドボーン、ドボーンと海に落ちてくる光景を…子供達に聞くと、今も同じ光景だと。そんなに時が経ったとも思えないけれど。あれこれ、あれこれ、甦りくることごとに支えられ、いつまでも生きているつもり。

○引越の荷造りに入り込んで、どこにあるのかわからないものが、まだまだいっぱいある。
今日、みつけた反古の中から出てきた自作の短歌の懐かしい。少し書き残す。

○目に見ゆる小さき円の面積の小さな誤差を許せずにゐる

○水蒸気と雲と雨との循環の地球の水の今日の一献

○不仕合はせなことは何もなきごとし一万メートルの高きにをりぬ

○はるかなる空を飛びゆくまだまだ飛んで松尾芭蕉も行かざりしところ

○夜の闇も明けゆく朝の朝焼も遠き昔のそのまま続き

○アーミーの双眼鏡をズームUP灰色ペリカン嘴でかし

○透き徹るコンソメスープのひと匙をいま赤道を越えゐるところ

○伊根湾の舟屋の常の生活の今描きかけの舟のい出ゆく

○刹那とふ言葉表はす数字として０．０００００００００００００００１秒？

○欲(ほ)りゐるはほのあたたかき白湯小望月の月の明るさ

ワイルドシルク作品展「シルクロードをつなぐ」

日時：2023 年3月 30 日（木）～4月 2 日（日）10:00～18:00

会場：「文化サロン汽水域」豊橋市東小池町 89-1
渥美線小池駅下車徒歩 10 分 駐車場有り

講演：3/31(金)「今昔物語と豊川犬頭神社」
4/1(土)「能衣装と繭の塩蔵」 14:00～今泉雅勝

「三河アララギ」について

◇三河アララギ発行所　〒一五〇-〇〇一三
東京都渋谷区恵比寿三-四五-三
フォーレストヒルズ三〇二
ケイタイ　090-8434-8646
TEL　03-6765-5838
◇URL　http://imaizumiyuri.jp/
E-mail　imayurizm@gmail.com

◇三河アララギ誌は毎月発行します。

◇どなたも参加、投稿いただけます。
三河アララギ編集室 今泉由利 までご相談ください。

◇原稿は毎月末日までに、発行所まで郵送、メール、お届け下さい。

◇会費制は廃止。

◇昭和七年、三河地域のアララギ歌人が集い、創立歌会が開かれ、御津磯夫主宰「三河アララギ」誕生。

◇令和四年現在まで一号の欠刊なく、続いてきました、続いてゆきます。

◇編集・発行　今泉由利